

EM (有用微生物群) による「生ごみ堆肥化」と土づくり



生ごみを醗酵させるEM(有用微生物群)を活用すると生ごみが良質の堆肥に生まれ変わります。できた堆肥を菜園や花作りに活用し安全でおいしい野菜作りや、きれいな花を咲かせましょう



必要なもの(※用意しておくの良い物)

- 醗酵用密閉容器(BBスペシャル)
- EMぼかし

※用意しておくの良いもの

- 新聞紙大判1枚、又は特大レジ袋1枚
(レジ袋は取手を切除して、底に沢山の孔を開けておく)
- 砂糖大サジ1ないし2杯(液肥の臭いを改善)

必要な物 (最低限準備)



醗酵用密閉容器



EMぼかし



乾燥ぼかし



大型のレジ袋



新聞紙(底敷き用)



新聞紙(中蓋用)



※レジ袋の底には線香などで沢山の孔を開けておく

事前準備として その1



醗酵用密閉容器（以下、醗酵容器）の醗酵液を抜くバルブは必ず閉めて、水漏れがないことを確認します（内部が濡れている場合は拭き取るか、乾燥させておきます）



醗酵容器の底（スノコの下）に、砂糖大サジ2杯を撒きます（臭いを気にしなければ必要なし）

事前準備として その2



醗酵容器に付いているスノコを敷き、新聞紙又は孔をあけた大型レジ袋・20Lのごみ袋を使って醗酵容器の内側を覆うようにします

※醗酵容器の洗浄が容易

※レジ袋又はポリ袋を用いると嫌気性が向上してEMぼかしの節約になる

生ごみとぼかし和え(あえ)の手順



三角コーナー(水切りかご)は必ずしも水切りにはならないので、果物などのトレイを用いてシンクの上に置き、まな板から捨てる部分も適当な大きさに切って入れる

手順 ②



醗酵容器に初めて「生ごみ」を入れる際は、新聞紙大判の1/3枚を二つ折りにして、醗酵容器の底（スノコの上）に敷き、その上に一握りのEMぼかしをまく

（新聞紙を敷くことでスノコの下に、ぼかしが落ちるのを防ぐ）

（EMぼかしをまくことで、生ごみがよくなじみ初期醗酵がスムーズになる）

手順 ③



適当な大きさ(茄子のへた等は縦に二つ切りにしておく)に切った「生ごみ」を醗酵容器に入れて、EMぼかしを振りかけ良く和える

手順 ④



生ごみを入れるたびにEMぼかしを振りかけて良く和える。

※ぼかしの量は、醗酵容器1杯に対して、乾燥ぼかし2ないし3袋(1.5kg)を目安とする

「生ごみ」に和えるぼかしの量は豆腐などのトレイ1杯につき一握りを目安とする
夏場はEMぼかしを多めに振りかけること

手順 ⑤



生ごみと空気が接する面を小さくするために
中蓋を利用する

(中蓋の代わりは六つ折にした新聞紙にレジ袋を被せたものでも可能)

※重石を上からのせる

(重石は薄型レンガを2枚並べるか、レジ袋に土か砂を入れたものでも可能)

※(スノコの上に敷いた新聞紙は、スコップ等で適当に裂き「生ごみ堆肥」と一緒に土に入れる)

手順 ⑥



バケツの蓋はしっかり閉める

(※蓋の出っ張り部分を前に向けて閉めると開閉が容易)

手順 ⑦



醗酵液が溜まったら、そのつど抜き出す

(※醗酵液は空気に触れると腐りやすいため溜めずに使い切る)

手順 ⑧



「生ごみ」が容器の8分目位になったら「生ごみ」が見えない程度に充分ぼかしをふりかけて、中蓋を被せる

重石を載せてしっかり蓋をして、直射日光の当たらない場所に2週間(夏季)から4週間(冬季)置く

手順 ⑨（完成）



漬物のような匂いになれば成功です。

それでは、「生ごみ堆肥」を土に入れましょう！堆肥は穴を掘って固めて入れるのではなく、土に充分良く混ぜます。（目安は堆肥の3～4倍以上の土と充分に混ぜます）

混ぜた土の上に、堆肥の混ざっていない土を5cm程度被せて堆肥の乾燥を防ぎます。加湿を避けるためにマルチシート（ゴミ袋等を開き代用）を被せて置きます。



より良い醗酵を促すために(注意点)

- ①生ごみに水分を含ませないために必ずシンクの上に置く
- ②生ごみは大きな塊で入れない※生魚の頭や内臓は特に細かく
- ③醗酵容器の底(初めの3~4cm)と最上面(最後の1cm)には生魚のアラや肉の脂身は入れない方がよい(蟹殻・海老殻含む)
- ④魚のアラや肉の脂身を入れる際は、ぼかしの量をそれらと同量以上入れる(イカの内臓などは裂いてからぼかしと充分和えて入れる)
- ⑤生魚や肉類が多い場合は電子レンジで加熱してから入れる
- ⑥スイカやメロンのように水分の多いものは細かく切って乾かして入れる
- ⑦みかん等のかんきつ類の皮は醗酵しにくいので細かく刻み醗酵期間を長く(2倍程度)取る
- ⑧醗酵液はこまめに抜き取り、すぐ使い切る(下水の会所に流すことも可)

醗酵後のぼかし和えを畑(庭)に入れる



半月から1ヶ月間醗酵させたぼかし和えを畑(庭)に入れる際は、穴を掘り、ぼかし和えを塊で入れず3倍以上の土とよく混ぜ、ぼかし和えの混ざっていない土を上から5cm程度被せる

(※水が湧いたり溜まる場所には、ぼかし和えを入れない)

(※過度の湿りを防ぐためシート等で覆い、半月から1ヶ月後に種まきや植え付けをする)

ぼかし和えの成果

